

2023年度 高校生を対象とした「出張オープンキャンパス」の講座

医薬保健学域 薬学類

※各学類毎に、希望するテーマを第3希望まで選んでください。

ただし、希望の講座で実施できない場合があります。

申込みは希望日の2か月前までをお願いします。

No.	学類	講座名称	講座の概要	対面	オンライン
1	薬学類	医薬品を創る	新しい薬が創られ、患者さんに使用されまでには、長い時間と、様々な情報、多大なる研究費用、そして熱意が必要です。また、最初に考えた化合物が実際に患者さんに使われる可能性は数万分の1という低い確率であるのが現状です。創薬が何故難しいか、さらにそこに挑戦するためにどのような専門性を持つ研究者達が関わっているか等をお話します。また、天然資源から探し出されたなじみ深い医薬品のトピックや薬学や健康に関するような化学の話を紹介・解説します。(講義内容は上記のうちの一部になります)	○	○
2	薬学類	生命科学の最前線	生命科学は日々進歩していますが、がん、糖尿病、アルツハイマー病など、私たちの寿命を左右する大きな疾患についても、未だ不明な点が多くあります。また、ゲノムの多様性による免疫応答の個人差が原因で移植拒絶反応が起き、現在開発が進められている再生医療でも、この拒絶反応が実用化の妨げのひとつとなっています。遺伝のしくみとともに、最近注目されているiPS細胞ではこの問題点を解決できる等の紹介、世界的に求められているより安全で有効なワクチンの現状や課題、環境問題と健康への影響、さらには、生命科学の必要性や問題点などを含めて、講師の取り組んでいる生命科学の最前線について講義します。(講義内容は上記のうちの一部になります)	○	○
3	薬学類	薬の動きと働き	投与された医薬品が投与部位から体の中をどのように動いて疾患部位に到達し、薬理作用を発揮するか、医薬品は生体にどのような反応を引き起こすか、どうして注射や内服など様々な投与形態があるか、何故食前や食後の指示があるか、飲食物がどのように影響するか、生体のどのような分子と反応して病態を改善するか、医薬品の作用・副作用に認められる個人差は何故生じるのか、などについて、具体例を挙げながら解説します。(講義内容は上記のうちの一部になります)	○	○
4	薬学類	くすりの適正使用と薬剤師の役割	薬は、使う量やどのように投与するのか等の条件が決められて初めて患者さんに使うことができます。しかし、使い方の情報が少ないと、適切に薬を使うことが出来ず、十分な効果が得られないまたは副作用が発症するなどの有害事象につながります。薬を効果的にかつ安全に使用するための取り組みと薬剤師の役割などを紹介します。	○	○

担当 学務部入試課学生募集係 076-264-5162